

「企業・人材プール」による講師派遣



12月18日(金)・1月8日(金)・22日(金)、中経連は「企業・人材プール」による講師派遣を実施した。

今回の講義は、(株)豊田自動織機人事部人材開発室組織グループ長の堀内靖弘氏と同社法務部リスクマネジメントグループ長の中西正命氏を講師に、愛知県立大学全学部の1～3年生20名を4チームに分け、PBL(課題解決型授業)方式で行われた。

初回は、講師から同社の現状や取り巻く環境変化について説明が行われた後、「女性が管理職を目指すためにどのような能力開発をすべきか。管理職に求められる要件およびライフイベントとの関連を考慮し、担当者として具体的な施策を提案せよ」との課題が提示された。

2回目は、課題への一次提案が行われた。学生のプレゼンに対して講師からは「課題と施策とのつながりが見えない」「施策の実現性・得失をどう考えるか」など、厳しい指摘があった。

最終回は、各チームの最終提案として熱のこもったプレゼンが続き、講師から温かいねぎらいの言葉も送られた中、拍手でお互いの取り組みを讃えながら講義が終了した。

講師からは「私たちも学生から良い刺激を受けた」



「熱心にプレゼンする学生の表情が印象的だった」、学生からは「企業の方から厳しい指摘を受けたが、むしろそれがよかった。最後はチーム全員で必死に考えた」「今の知識や思考力のレベルでは社会で通用しないことを思い知り、これからやるべきことが見えてきた」、担当教授の小池康弘氏からは「この授業を経験した学生は格段に成長する。今後も大学と企業の協同による教育を発展させていきたい」とのコメントがあった。

本会では、平成29年度からの本格運用開始に向け、引き続き同プールの試行を継続していく予定である。

今回の講義は(一社)FSP(Future Skills Project)研究会が開発した産学協同教育モデルを取り入れ、企業と大学が協力して実践した。

(企画部 久保田 孝重)

中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会 第3回総会



2月15日(月)、東海3県1市の行政、経済団体等で構成する「中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会」は、第3回総会を名古屋市にて開催し、中経連から三田会長が出席した。

冒頭、同会会長の大村愛知県知事より挨拶があり、「中部国際空港は路線の新規就航が相次いでおり、今後の利用者数の大幅な伸びが予想される。2027年のリニア中央新幹線開業を見据え、

二本目滑走路を始めとする中部国際空港の機能強化に早期に着手する必要がある」と述べた。

また、来賓として中部国際空港拡充議員連盟会長の川崎衆議院議員が出席し、「アジアからの訪日外国人旅客需要により旅客数も回復傾向となっており、二本目に向けて機運が高まってきている。今後、中部国際空港を中部の玄関として、地域の成長に貢献できるようにしなければならない」と述べた。

その後、同会副会長の三田会長が緊急アピール文案を読み上げ、地域の関係者が一丸となり、二本目滑走路の整備(完全24時間化)を始めとする中部国際空港の機能強化の早期実現を目指していく旨の決議が採択された。

総会終了後、松本(株)JT B中部代表取締役社長、ならびに井手エアアジア・ジャパン(株)代表取締役会長を講師に迎え、「中部の需要拡大に向けたJT Bのチャレンジ」「就航エアラインが地域に望むこと」をテーマに講演会が行われ、約200名が聴講した。

(社会基盤部 奥山 基樹)

名古屋駅に「伊勢志摩サミット」 カウントダウンボードを設置



5月26日・27日に開催される伊勢志摩サミットの歓迎機運の醸成を目的に、伊勢志摩サミット東海会議(会長:三田中経連会長)は、開催100日前にあたる2月16日(火)、JR東海の協力のもとに、名古屋駅新幹線口にカウントダウンボードを設置した。

カウントダウンボードの除幕式では、三田会長、大村愛知県知事、鈴木三重県知事、河村名古屋市長等が幕を引き、サミット開催に向けたカウントダウンが始まった。

設置されたカウントダウンボードは、「伊勢志摩サミット2016へのゲートウェイ」とのタイトルのもとに、中央には昇龍道をデザインし、また当地域が誇るものづくりなどの最先端技術や、明るい明日を叶えるリニア中央新幹線、さらに豊かな自然、伝統・文化など観光に関するパネルも配置されており、地域一体となった歓迎機運醸成の思いが込められている。なお、カウントダウンボードは5月28日まで設置する。

(伊勢志摩サミット支援推進室 和田 耕一郎)

第15回水ビジネスセミナー

3月2日(水)、水のいのちものづくり中部フォーラムは「第15回水ビジネスセミナー」を



名古屋市内にて開催し、35名が参加した。

本セミナーは、水に関する技術情報やビジネス情報を発信するとともに活発な議論を行うことを目的に、定期的で開催している。

今回は、(独)水資源機構中部支社副社長の柴田和昭氏を講師に迎え、「日本の水資源開発～独立行政法人 水資源機構の事例～」と題した講演会を行った。セミナーには、水資源マネジメントやダム開発などに興味がある留学生も参加した。

セミナー後、講師や留学生を交えた意見交換では、国内の渇水対策の理解促進や海外におけるダム開発等、多岐にわたる内容について熱心な議論が行われた。

(社会基盤部 西井 憲治)